

避難所運営についてみんなで考えよう

佐賀市男女共同参画課 発行

避難所では、安全性の確保のほか、高齢者・障がいのある方・病気の方・妊産婦・乳幼児・こども・外国人・トランスジェンダーの方等々、さまざまな方への配慮が求められます。

平常時・災害時にあらゆる防災施策に男女共同参画の視点を入れることが、被害の縮小、災害に強い地域づくりにつながります。



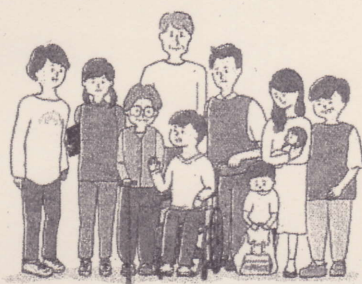
避難所にいるのはどんな人？ ～配慮が必要な人々の特徴を知ろう～

妊産婦

走るなど一般の人と同じような行動ができない。流産・早産・乳腺炎や膀胱炎など健康リスクがある。

要介護の高齢者・障がい者とケア者

疾患、障がいの種類が多様。避難所で困難な状況に直面しやすい。



外国語を母語とする人

言葉のハンデ、土地勘がない、食べられないものがある、異国での孤独感などの問題に直面する。

DV被害者

災害時にはDVが顕在化しやすいことに注意。プライバシーに配慮をする。

乳幼児とその家族

子供を一人にしておけないので配給の列に並びづらいなど不便。泣き声などで周囲に気を遣う。

LGBTQ+（性的マイノリティ）の方

女性・男性への性別配慮は不可欠だが、それによりトイレや着替え、入浴に困る人もいる。

男女共同参画の視点で

みんなでつくろう！安全・安心な避難所

女性が意見を言う機会を得られず我慢してしまう、男性が過度な責任や負担を強いられるなど、男女それぞれが困難な状況に陥るといったことのないよう、固定的性別役割分担意識にとらわれない避難所づくりについて考えましょう。

◆ 避難所運営に参加してみよう！

避難所運営に参加するにあたって、男女共同参画の視点を取り入れた避難所づくりのベースとなる考え方を知っておきましょう。



◆ 性別や年齢で役割を決めない

東日本大震災の避難所では、炊き出しを女性だけが担い、疲れ切ってしまうケースがありました。食事の準備や後片付け、清掃などの役割が性別や年齢で偏らないよう配慮しましょう。例えば、小中高生が物資配布や食事作りをする、高齢者が子どもたちの話し相手をするなど、それぞれが可能な範囲で役割を担うことが大切です。

◆ 多様な人々と協力し合う

避難者は、性別や年齢、障がいの有無、アレルギーの有無、妊娠、LGBTQ+の方、外国人など、一人ひとりが多様かつ複合的なニーズを抱えています。すべての人々に運営側が配慮するのは現実的ではありません。多様な避難者自身も運営に参加してもらい、誰もが安心して過ごせる体制や環境を整えていくことが必要です。